

平成 23 年度事業報告
平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

平成23年度の事業活動は、公益法人移行に向けて公益目的事業としての所定の要件を満たすため、年度末に既存の技能連携事業を終了させるなど現行の8事業の整理統合を行うと共に、財団の公益目的事業を支障なく運営する必要から、安定財源確保のための収益事業として土地建物の購入をし、財団を運営していくための基盤づくりを行った。

不登校小中学生の学校復帰支援の場「元気の泉」では、教育現場で学習支援や心理的ケアのできる人材育成が急務となっている。学習心理支援カウンセラーの広域的研修と資格認定事業の整備、そしてピアアシスタントの育成を更に進めることとした。

自然体験活動では、不登校小中学生の学校復帰への支援を目的とした夏休み親子合宿キャンプ事業は、児童・生徒の体験不足やコミュニケーション不足を補い、親子の自尊感情の高まりや学校復帰を高めることに有効であった。

5才から9才までの子どもの成長発達段階に応じた「からだ、こころ、あたま」をバランスよく育む教育プログラム「まなびのアトリエ」の研究開発は、今年度を完成年度とし、この研究成果を教育現場に導入するため、本教育内容のプログラムの学習会や教員研修会が行われた。

環境教育ポスターコンクールにおいては、震災の影響が心配されたが、各学校から厳選され寄せられた多くの作品には、心に残る標語を含んだ作品も多く、節電への取り組みなど子ども達の環境への意識を大いに高めることができた。

その他、会報誌の発行やホームページをリニューアルし、当財団の公益事業の活動紹介など広報の充実を図った。

平成23年度の活動の主な内容は、以下のとおりである。

I. 運営に関する事項

<会議事項(1)>

年月日	会議名	議 題	場 所
平成23年 6月9日	定例評議員会	平成22年度事業報告について意見及び承認を求める件 平成22年度収支決算について意見及び承認を求める件 公益法人移行について議決を求める件 技能教育施設の設置者変更について議決を求める件 最初の評議員の選任方法の案について議決を求める件	I P C 日本事務局 会議室
平成23年 6月9日	定例理事会	平成22年度事業報告について承認を求める件 平成22年度収支決算について承認を求める件 公益法人移行について議決を求める件 技能教育施設の設置者変更について議決を求める件 最初の評議員の選任方法の案について議決を求める件	同 上

年月日	会議名	議 題	場 所
平成24年 3月15日	定例評議員会	平成23年度事業計画の変更について議決を求める件 土地建物の購入について意見を求める件 平成23年度収支補正予算について議決を求める件 平成24年度事業計画について議決を求める件 平成24年度収支予算について議決を求める件 (学)創志学園との建物賃貸借契約(クラーク高等学院 静岡及びさいたま校)について意見を求める件 技能教育施設の移管先の変更について意見を求める件	同 上
平成24年 3月15日	定例理事会	平成23年度事業計画の変更について議決を求める件 土地建物の購入について議決を求める件 平成23年度収支補正予算について議決を求める件 平成24年度事業計画について議決を求める件 平成24年度収支予算について議決を求める件 (学)創志学園との建物賃貸借契約(クラーク高等学院 静岡及びさいたま校)について議決を求める件 最初の評議員選定委員会の外部委員の選任について議決 を求める件 技能教育施設の移管先の変更について議決を求める件	同 上

<会議事項(2)>

年月日	会議名	議 題	場 所
平成23年 7月5日 8月17日 9月16日 11月25日 平成24年 2月3日 3月28日	こども教育 支援財団 全国希望地区 会議	(旧称)元気の泉運営に関する会議	東京分室、さいたま分室、 千葉分室、柏分室、横浜分 室、仙台分室、名古屋分 室、芦屋分室、大阪分室、 京都分室
平成23年 12月16日	こども教育 支援財団 全国会議	平成24年度以降のこども教育支援財団の 運営、予算などに関する会議	同 上

<会議事項(3)>

年月日	会議名	議 題	場 所
平成23年 6月～ 平成24年 3月	公益法人移行 に関する連絡 会議(28回)	公益法人移行申請のための全般的課題の検討及び 文書の作成等	東京事務局 経理部・人事部 他 公認会計士

< 行政関連事項 >

年月日	件名	備考
平成23年 5月30日	< 文部科学省 > 登記事項変更の届出 (理事の再任)	文部科学大臣の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則 (平成12年総理府・文部省令第4号) 第3条

年月日	件名	備考
平成23年 7月14日	最初の評議員の選任に関する理事の定めについての許可	整備法 第92条
平成23年 8月8日	< 文部科学省 > 平成22年度事業報告・収支決算書提出	文部科学大臣の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則 (平成2年総理府・文部省令第4号) 第8条
平成23年 8月9日	< 文部科学省 > 登記事項変更の届出 (理事の住所の変更)	文部科学大臣の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則 (平成2年総理府・文部省令第4号) 第3条
平成23年 11月18日	< (独法) 国立青少年教育振興機構 > 平成23年度子どもゆめ基金助成金交付決定通知 (530千円)	いきいき夏休み自然体験親子合宿キャンプ事業 2011 一不登校改善事業一 (関東)
平成23年 11月24日	< (独法) 国立青少年教育振興機構 > 平成23年度子どもゆめ基金助成金実績報告書提出 (530千円)	いきいき夏休み自然体験親子合宿キャンプ事業 2011 一不登校改善事業一 (関東)
平成24年 1月20日	< 文部科学省 > 平成23年度特例民法法人概況調査票提出	公益法人の設立許可及び指導監督基準他
平成24年 3月31日	< 文部科学省 > 平成24年度事業計画・収支予算書提出	文部科学大臣の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則 (平成12年総理府・文部省令第4号) 第6条

Ⅱ. 事業に関する事項

1. 子どもの教育に関する講演会、学習会、講座の開催

◇ 不登校中学生のための高校進路説明会・相談会

- (1) 実施日：①平成23年 7月31日
②平成23年10月 1日
- (2) 場所：①コア・いけぶくろ（豊島区立豊島区民センター）
②オフィスワン四条烏丸 13階（京都府下京区）
- (3) 対象者：不登校児童生徒、保護者並びに教育関係者等
- (4) 講師：①第一部 井上 英昭（東京都中学校長会 前事務局長）
第二部 東 宏行（埼玉県立大学教授）
②杉田 郁代（I P U環太平洋大学准教授）
- (5) 参加者：① 103組 161名
② 17組 24名
- (6) 内容：不登校中学生に、高校進学の実践例を伝えてもらうことを目的に、高校の通い方（全日制、定時制、通信制等）の説明及び専門家による進学指導講演、教職員による個別相談等を行い、進学支援を行った

◇ 学校復帰支援シンポジウム—こどもたちの心に響く働きかけ—

- (1) 期間：平成23年5月～平成24年3月
- (2) 対象者：不登校生徒児童を持つ保護者並びに教育関係者等
- (3) 場所：

平成22年度	全国19箇所 札幌、仙台、さいたま、所沢、東京、千葉、柏、横浜、静岡、 浜松、名古屋、京都、大阪、奈良、芦屋、広島、小倉、福岡、 鹿児島
平成23年度	全国17箇所 札幌、秋田、仙台、さいたま、所沢、東京、千葉、柏、横浜、 静岡、名古屋、京都、大阪、芦屋、広島、福岡、鹿児島

(4) 回数：

平成22年度	合計 74回
平成23年度	合計 55回

(5) 参加者：

平成22年度	合計 2,988名
平成23年度	合計 1,949名

- (6) 内容：各回テーマを設け、不登校問題に実践的に取り組まれている講師による講演、不登校を克服した児童生徒やその保護者、クラスの担任・養護教諭、相談機関担当者などによる体験談報告を行った
なお、今年度予算計上していた助成金が受けられず自己財源で行った為、実施回数をやむなく減らすことになった

◇ 子育て支援のための講演会

- (1) 期間：4月上旬
- (2) 場所：宮城県
- (3) 内容：講演会ではなく、支援活動を行った。東日本大震災被災者支援活動のために避難所に行き、財団仙台分室・連携校のクラーク記念国際高校のボランティアの生徒及び財団職員が全員で作った「メッセージ入りのお菓子の詰め合わせ」600個をもって被災者への物資支援を行った。

また、仙台キャンパスにおいても、連携校の協力があって、財団のピアアシスタントの資格を得た高校生たちが、被災地に住む不登校中学生に放課後学習のサポートを行った。

◇ 第3回全国環境教育ポスターコンクール

- (1) 期間：平成23年7月～24年3月
- (2) 場所：首都圏、西日本
- (3) 後援：環境省、教育委員会（首都圏：東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、江東区、品川区、新宿区、港区、世田谷区、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、近畿：兵庫県、神戸市、大阪府、京都府、奈良県、大阪市、神戸市、中四国：岡山県）(株)学研ホールディングス、東京ガス(株)
- (4) 審査委員：
 - 最終審査委員長：川口 順子（参議院議員・元環境大臣・元外務大臣）
 - 最終審査委員：安藤 忠雄（建築家）
 - 谷口 文章（日本環境教育学会国際交流委員長）
 - 津田 裕子（女子美術大学教授）
 - 三浦雄一郎（(社)全国森林レクリエーション協会会長）
 - 山根 基世（ことばの杜代表）
- (5) 表彰式：平成23年12月4日 がすてなーにガスの科学館
- (6) 展示会：首都圏、近畿、中四国巡回展示
 - ・(株)学研ホールディングス本社（平成23年11月28日～12月2日）
 - ・がすてなーにガスの科学館（平成23年12月3日～12月25日）
 - ・神戸関電ビルディングギャラリー（平成24年1月10日～1月20日）
 - ・天王寺動物展示室（平成24年1月24日～1月29日）
 - ・IPC・環太平洋大学（平成24年2月18日～2月19日）
- (7) 応募校数・募点数：

ブロック	小学校		中学校		高校		合計	
	校数	点数	校数	点数	校数	点数	校数	点数
首都圏	79	496	101	710	15	83	195	1,289
西日本	127	1,037	80	871	22	185	229	2,093
合計	206	1,533	181	1,581	37	268	424	3,382

- (8) 内容：子ども達が環境について考え、環境を保全するために何ができるかを考える機会となることを願い、2ブロックの地域（首都圏・西日本）の小・中・高の学校から環境をテーマにした作品を募集し、展示会、表彰式を行った。今回は節電への取り組みを訴える作品も多数応募され、西日本ブロックからは東日本大地震によって被災した地域への応援メッセージを標語とした心温まる作品が寄せられた。

◇ 富良野自然体験ツアー（第2回全国環境教育ポスターコンクール最優秀賞副賞）

- (1) 実施日：平成23年7月29日～31日（2泊3日）
- (2) 場所：北の大地元気の泉キャンパス、富良野自然塾
- (3) 対象者：第2回全国環境教育ポスターコンクール最優秀賞受賞者
- (4) 参加者：8名（保護者2名職員2名含）
- (5) 内容：富良野自然塾での自然体験（環境教育プログラム）、北の大地元気の泉キャンパスでの野菜収穫体験、富良野でのチーズづくり体験等さまざまなプログラムの体験をしてもらった。

◇ 第3回国際交流作文コンクール

- (1) 期間：平成23年8月～平成24年1月
- (2) 場所：愛媛県
- (3) 共催：愛媛女子短期大学
後援：宇和島市教育委員会、愛媛新聞社、南海放送
- (4) 審査員：大橋 節子（(財)こども教育支援財団 理事）他3名
- (5) 表彰式：平成24年1月28日 愛媛女子短期大学けやきキャンパス
表彰式参加者数：109名
- (6) 参加校：14校（14作品）
受賞者：最優秀賞 1名、部門賞 1名、佳作 1名、愛媛新聞社賞 1名
- (7) 内容：愛媛県内の国際理解教育の推進を目的として、愛媛県内の小中学生から、国際交流に関するテーマにした作文を募集し、表彰式を行った。
※平成23年度で終了

◇ 「まなびのアトリエ」学習会及び研修会

- (1) 実施日：6月10日～12日（3日間）
- (2) 場所：創造学園エディック（兵庫県）
- (3) 主催：こども教育支援財団次世代育成センター
- (4) 学習会：公開授業
 - ①科目：4科目「ことば」「アート」「すうがく」「サイエンス」
 - ②対象：小学校1年生から3年生
 - ③生徒数：延べ60名
- (5) 研修会：①教員対象
 - ②受講者数：延べ80名
- (6) 講師：内田 伸子（お茶の水女子大学名誉教授）
松木 正子（十文字学園女子大学教授）
郡司 明子（群馬大学准教授）
神戸 佳子（お茶の水女子大学附属小学校教諭）
増田 伸江（お茶の水女子大学附属小学校教諭）
- (7) 内容：「ことば」「アート」「すうがく」「サイエンス」の4領域を連携・協働させる新しいカリキュラム。授業を通じて子どもたちが、学びの喜びがわかる学び、学校が楽しくなる学び、即効性より底力を身につけさせることを目指す次世代育成メソッド。
本教育に関する知識、理解を深めるため、教職員関係者等に向け公開授業を行った。
教員研修では、本プログラムの趣旨、目的等の理解及び授業内容に即した指導の目的、方法、ポイントについて実施した。

◇ 「学習心理支援カウンセラー」研修事業及び資格認定

－教育機関に関わる学校の先生を対象とした研修－

- (1) 期間：平成23年4月～平成24年3月
- (2) 対象者：教員及び不登校支援機関等の職員等
- (3) 場所：全国2箇所（東京、神戸）
- (4) 資格取得者：

平成22年度	入門課程	22名、基礎課程	47名、専門課程	5名
平成23年度	入門課程	28名、基礎課程	63名、専門課程	4名

(5) 研修内容：

- ① 入門課程…不登校支援機関や教育機関等でボランティアとして働く大学生・大学院生を対象に、教育や心理学の基礎的知識を習得する研修を実施
講義研修（6時間×2日間）、修了試験
- ② 基礎課程…指導力・学級経営力の向上、不登校に対する見立て・基本的対応方法の習得
講義研修（6時間×6日間）、在宅研修レポート（20時間）、実践ワーク（2回以上）、修了試験
- ③ 専門課程…行動療法の技法、ブリーフカウンセリング、ピアアシスタント養成技術の習得
講義研修（6時間×6日間）、実践研究レポート作成

◇ 「ピアアシスタント」の研修事業及び資格認定

－児童生徒に対するコミュニケーション能力の開発－

- (1) 期間：平成23年4月～平成24年3月
- (2) 対象者：高校生
- (3) 場所：

平成22年度	全国14箇所 仙台、さいたま、東京、秋葉原、柏、千葉、横浜、厚木、静岡、浜松、名古屋、芦屋、三田、岡山
平成23年度	全国14箇所 札幌大通、仙台、柏、千葉、さいたま、東京、横浜、横浜青葉、厚木、静岡、豊田、名古屋、奈良、芦屋、

- (4) 授業形態：①年間授業型、②集中講義型
- (5) 資格取得者：

平成22年度	基礎課程 309名、専門課程 75名
平成23年度	基礎課程 360名、専門課程 73名

(6) 研修内容：

- ① 基礎課程…ピアアシスタントの役割、コミュニケーションスキル、不登校児童生徒との関わり方の習得
講義研修（45分×30時間）、修了試験
- ② 専門課程…不登校の理解、不登校児童生徒への支援、元気の泉での実習
講義研修および実習（45分×30時間）、修了試験

◇ 乳幼児ケアヘルパー（初級）資格認定

■兵庫・岡山

- (1) 実施日：①平成23年9月～平成24年2月（兵庫）
②平成23年10月～平成24年3月（岡山）
- (2) 場所：①創志学園本部
② IPU・環太平洋大学
- (3) 対象者：幼稚園教諭もしくは保育士資格を有し、教育・保育・児童福祉等の分野での仕事に従事する者（職務経験1年以上）
- (4) 受験者：①37名（合格者 14名）
②34名（合格者 20名）

■愛媛

- (1) 実施日：平成23年4月～平成24年3月
 - (2) 場所：愛媛女子短期大学
 - (3) 対象者：在籍翌年度に幼稚園教諭もしくは保育士資格見込みの者
 - (4) 受験者：13名（合格者 7名）
 - (5) 内容：母親や家族も含めた相談援助技術の習得や心理療法的な保育内容の工夫、
発達促進的な保育内容の実践等、現場で抱える問題に即した理論と技術を身につけていることを認定
- ※愛媛においては平成23年度で終了

◇ 幼児英語インストラクター資格認定

- (1) 実施日：平成23年4月～平成24年3月
 - (2) 場所：愛媛女子短期大学
 - (3) 対象者：在籍翌年度に幼稚園教諭もしくは保育士資格見込みの者
 - (4) 受験者：6名（合格者 6名）
 - (5) 内容：幼児の英語指導の知識と技能を身につけていることを認定
- ※平成23年度で終了

◇ キッズスポーツリーダー資格認定

- (1) 実施日：平成23年4月～平成24年3月
 - (2) 場所：愛媛女子短期大学及び元気の泉保育園
 - (3) 対象者：保育学科1・2年次（幼児体育専攻者）
 - (4) 受験者：31名（合格者 29名）
 - (5) 内容：幼児体育に関する基本的な知識と理論、実践的な指導方法を指導者、指導補助者として身につけていることを認定
- ※平成23年度で終了

◇ 子育て支援プロジェクトリーダー資格認定

※平成23年度実施されず平成24年度より一般外部向けに有料研修会を行う予定

◇ 子どもの教育に関する技能教育施設による事業運営

ー中学校卒業者に対して自己確立のための高等学校課程にかかる教育事業ー

- (1) 対象者：中学校卒業者

平成22年度	合計	884名
平成23年度	合計	976名

- (2) 場所：全国8箇所（さいたま、所沢、千葉、静岡、岐阜、姫路、豊岡、広島）
- (3) 日時：月～金曜日8:30～15:30（分室によって異なる）
- (4) 内容：「学習面」「精神面」「体力面」「コミュニケーション力」の向上をベースに、将来の進路を決定していくため、下記のコースを置く
 - ①オンリーワンコース…中学時代不登校経験者及び不登校による高校中退者に学校復帰をさせる
 - ②総合進学コース…いろいろな体験から自分の進路を模索させる
 - ③国際コース…留学体験を通して自立性を高める
 - ④難関大学進学コース…自分の希望する大学進学を達成させる
 - ⑤福祉心理コース…「元気の泉」と連携してピアアシスタント研修や福祉実習を行う

上記のコースの会員に対して下記のサポートを共通して行う

- ・通信高校と技能連携し高校資格を与える
- ・オリジナルテキストを使用した基礎学力の養成
- ・教員全てに学習心理支援カウンセラーの資格を取得させ、心理面でのサポートを行う

※平成23年度で事業終了

2. 子どもの教育に関する調査研究

◇ 「まなびのアトリエ」有識者会議

- (1) 出席者：大橋 節子（こども教育支援財団理事）
 内田 伸子（お茶の水女子大学名誉教授）
 松木 正子（十文字学園女子大学教授）
 神戸 佳子（お茶の水女子大学附属小学校教諭）
 増田 伸江（お茶の水女子大学附属小学校教諭）
- (2) 開催日：7月
- (3) 場所：こども教育支援財団次世代育成センター
- (4) 内容：6月に行われた「まなびのアトリエ」学習会及び教員研修会を振り返り、今後の実施計画等について検討を行った。
 平成23年度を「まなびのアトリエ」教材開発の完成年度とし、平成24年度から創造学園エディックが試験的授業を実施予定。

3. 子どもの自然体験活動、社会奉仕体験活動その他の体験活動の場の提供

◇ 自然体験活動の実施

児童・生徒及びその保護者を対象に野外活動施設を利用し、自然環境に親しむ中でのキャンプその他の体験プログラムを実施し、子どもたちの学校復帰への第一歩となるコミュニケーション力の向上や自主性を育み、社会適応力などの育成支援を行う。

・実施場所：全国14都道府県

北海道、宮城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、広島県、鹿児島県

- ①春：桜を見る会、海岸清掃、畑作
- ②夏：キャンプ、野外バーベキュー
- ③秋：収穫、調理、ハイキング、体育祭、文化祭
- ④冬：初詣、スキー

年度中、各種課外活動 美術館・博物館見学、自然体験、職業体験、卒業旅行等

◇ 桜を見る会

- (1) 実施日：平成23年4月10日
- (2) 場 所：株式会社ドン・キホーテ本社
- (3) 主 催：株式会社ドン・キホーテ
- (4) 参加者：元気の泉（東京・さいたま・千葉・柏分室）の児童生徒及び関係者
 （児童生徒22名、保護者9名、財団教職員9名、学生ボランティア10名）
- (5) 内容：元気の泉の活動を知ったドン・キホーテから、昨年度同様、都内有数の桜の名所目黒川沿いにある本社2Fの特設桟敷席に招待された。桜の開花を楽しみながら、コミュニケーションスキル、集団活動に参加する楽しさを学ぶ機会となった。

自然体験キャンプ活動

- (1) 実施日：①平成23年8月4日～5日（1泊2日）
②平成23年8月29日～31日（2泊3日）子どもゆめ基金助成金事業
- (2) 場所：①兵庫県神戸市立六甲自然の家
②千葉県千葉市少年自然の家
- (3) 対象者：元気の泉及び一般の児童、生徒
- (4) 講師：①田原 俊司（玉川大学教職大学院教授）
②田原 俊司（玉川大学教職大学院教授）
- (5) 参加者：児童生徒 9名、保護者 1名、ピアアシスタント生徒 10名、
学生ボランティア 2名、財団職員 4名、保健師 1名、
指導者 1名
②児童生徒 47名、保護者 17名、ピアアシスタント生徒 13名、
学生ボランティア 10名、財団職員 11名、保健師 1名、
指導者 1名
- (6) 内容：大自然の中で、自分を見つめなおす機会をもつことにより、集団の中で
自分のできることを再確認したり、また同世代との関わり合いの楽しさ
等を学んだ。

4. 子どもの教育に関する相談事業

◇ 子ども達の悩み等のカウンセリングを行うための個別教育相談会及びグループ相談会

- (1) 対象者：不登校傾向のある児童・生徒、保護者、教員他

平成22年度	延べ	1,650名
平成23年度	延べ	1,193名

- (2) 場所：元気の泉およびその他シンポジウム会場にて

平成22年度	全国14箇所元気の泉、その他シンポジウム会場 札幌、仙台、さいたま、東京、千葉、柏、横浜、静岡、名古屋、京都、 大阪、芦屋、広島、福岡
平成23年度	全国14箇所元気の泉、その他シンポジウム会場 札幌、仙台、さいたま、東京、千葉、柏、横浜、静岡、名古屋、京都、 大阪、芦屋、広島、福岡

- (3) 期間：平成23年4月～平成24年3月

- (4) 内容：不登校克服・改善への対応の仕方、スキル、心理対応等の臨床的カウンセ
リング

5. 不登校児童・生徒の学校復帰に対する支援

◇ 子ども達の居場所としての「元気の泉」の運営

- (1) 対象者：不登校傾向にある小・中学生・高校生および保護者

平成22年度	合計	428名
平成23年度	合計	382名

- (2) 場所：

平成22年度	全国14箇所 札幌、仙台、さいたま、東京、千葉、柏、横浜、静岡、名古屋、京都、 大阪、芦屋、広島、福岡
平成23年度	全国14箇所 札幌、仙台、さいたま、東京、千葉、柏、横浜、静岡、名古屋、京都、 大阪、芦屋、広島、福岡

(3) 日時：月～金曜日 10:00 ～ 17:00 (分室によって異なります)

(4) 学校復帰者数：

平成22年度	合計	289名	学校復帰率67.5%
平成23年度	合計	258名	学校復帰率67.5%

学校復帰率には、部分や一部登校含む

(5) 内容：「学習面」「精神面」「体力面」「コミュニケーション力」の向上をベースに、「学校復帰」を最終目標として活動していくため、下記のコースを置く

- ①ファミリー会員コース……保護者へのサポートを中心とする
- ②メンタルサポーターコース…ひきこもり傾向の児童生徒に対し家庭訪問によるサポートをする
- ③キャンパス通学コース…週1日コース、週2～5日コースで元気の泉へ通学する
- ④高校準備コース………中3生徒を対象に高校生活を円滑に始められるようにする
- ⑤アフターケアコース……元気の泉を経て学校復帰を果たした児童生徒をフォローする

上記のコースの会員に対して下記のサポートを共通して行う

- ・「元気の泉」通室保護者への定期的な個別面談
- ・児童生徒在籍校関係教員との定期的な情報伝達
- ・教育シンポジウムの案内、活動報告書、活動通信の作成と郵送
- ・親の会の実施

◇ 子どもの育ちを考える研究会

いのち
生命 と心の教育－心の豊かさと指導力の養成

- (1) 委員の構成：近藤 靖宏 委員長
杉村 省吾（武庫川女子大学教授）等10名
- (2) 内容：不登校等、様々な教育課題を内包しつつ、人としての成長の道を歩む子どもへの支援のあり方を研究する。

■ いのち「生命 と心の教育」研修会

- (1) 実施日：①平成23年 7月23日
②平成23年 8月 6日
- (2) 場所：①アンビシャスビルⅡ（神戸市中央区磯辺通4丁目1-6）
②アンビシャスビルⅡ（神戸市中央区磯辺通4丁目1-6）
- (3) 参加者：①34名（教員20名、SC10名、その他4名）
②37名（教員18名、SC4名、その他15名）
- (4) 講師：①「ストレスマネジメント教育」（東日本大震災の取り組みから）
富永 良喜（兵庫教育大学教授）
②「心の傷といやしー不登校生、虐待体験者等との出会い」
杉村 省吾（武庫川女子大学教授）
本多 修（武庫川女子大学教授）
- (5) 内容：
 - ・子どもの育ちを考える研究を推進し、ネットワーク化してきた関係者のスキルアップ的な研修と、さらなる連携が図れた。
 - ・講義一辺倒から、演習等の時間を重点的に行ったことから、参加者の主体的な研修が可能となった。

■子どもの育ちを考えるシンポジウム

いのちと心の教育を考えるー再び大震災を受けてー

- (1) 実施日：平成23年11月12日
- (2) 場所：兵庫県淡路市立津名中学校 体育館
- (3) 講師：高木 慶子（上智大学特任教授・上智大学グリーンケア研究所所長）
鼎談・フロアとの交流：
コーディネーター 大橋 節子（学校法人創志学園学園長）
ゲスト 高木 慶子（上智大学特任教授・上智大学グリーンケア研究所所長）
ゲスト 高橋 哲（兵庫県スーパーバイザー）
- (4) 内容：今年度のテーマ「命と心の教育」についての取組みの第2弾として開催した。「生と死」について語り、東日本大震災の支援活動を行っている方々を講師とし招き、基調提案と鼎談の形で課題の掘り下げと、新たな指針を明示して頂いた。

◇ 子どもの居場所と親の役割を考える会（親の会）

- (1) 期間：平成23年4月～平成24年3月
- (2) 対象者：会員保護者、及び未会員参加希望保護者

平成22年度	合計	850名
平成23年度	合計	857名

- (3) 場所：

平成22年度	全国14箇所 札幌、仙台、さいたま、東京、千葉、柏、横浜、静岡、名古屋、京都、大阪、芦屋、広島、福岡
平成23年度	全国15箇所 札幌、仙台、さいたま、東京、千葉、柏、横浜、静岡、名古屋、京都、大阪、芦屋、広島、福岡、鹿児島

- (4) 回数：月1回程度（土曜日 13:00～16:00）

平成22年度	合計	84回
平成23年度	合計	66回

- (5) 内容：親の会は、講師、スタッフを交えての勉強会と保護者同士の懇親会の場となっている。毎回さまざまなテーマを取り上げ、心理学的な面を通して子どもとの関わりについて考えていく機会にしている

6. 子どもの教育に関する国際交流事業

保護者等への国際教育に関する交流を企画し、海外の教育事情、自然、文化、歴史等に触れ、体験することで、より広い視野に立ち、自らの子ども達の教育育成に寄与できるような支援を行った。

- (1) テーマ：ニュージーランド教育事情視察
- (2) 対象者：保護者・生徒、教員

7. 子どもの教育を支援するための個人や団体に対する奨励金の授与や資金援助

◇ 文部科学省 東日本大震災「子どもの学び支援ポータルサイト」にて物的支援

- (1) 期間：平成23年5月～7月
- (2) 内容：震災復興支援のため、文部科学省の子どもの学びを支援するためのホームページ「子どもの学び支援ポータルサイト」にて物的支援（「天使のねんど」500個）の提案を行い、以下のところより支援の要請を頂いた。

(3) 支援先 :

宮城県大崎市教育委員会学校教育課	30 個
宮城県亙理軍山元町立山下中学校	290 個
宮城県石巻市湊小学校他 (小澤美代子 (さくら教育研究所所長))	180 個

8. 定期刊行物の発行

(1) 子どもの教育に関する今日的課題を積極的に取り上げた機関紙を編集発行した。

- ・会報「元気の泉」平成24年 05号
- ・元気の泉パンフレット改訂版

(2) 広報活動のネット上の重要性から、ホームページをリニューアルし、財団の業務紹介、申し込み事務等受益者へのサービス事務の拡充などネットを活用した広報の充実を図った。 <http://www.kodomo-zaidan.net/>

※メールマガジンの購読者数	平成23年4月	162 名
	平成24年3月末	346 名

9. その他目的を達成するために必要な事業

(1) 新公益法人移行への申請作業を行った。

(2) 公益財団法人として認定後、平成25年度より公益目的事業を行うにあたり、その財源を補う方法として23年度末に土地建物(クラーク高等学院さいたま校)を購入した。平成24年度から収益事業(不動産賃貸事業)を行う予定。